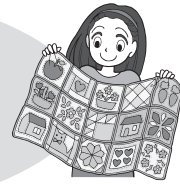


町民ギャラリーが おもしろい



勝占東部コミュニティ協議会
会長 高島 伸一

コミュニティ だより

徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地

〒770-8571
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511



勝占東部

勝占東部コミュニティ協議会では、昨年十月に「文化展」を開催しました。初めての「文化展」で不安

もありましたが、「とにかくやってみよう」ということで始めました。

会場はロビーが広いのでロビー全体を使用、展示パネルはパネルのボードのみを地元業者に制作依頼、ポールや枠は突貫工事で作、なんとか間に合わせました。展示作品は、コミセンを利用している

教室や小学校に協力をお願いしました。

一週間の開催期間でしたが、期間中に婦人会のバザーを同時開催したこともあり、結構見学者もありました。思いっきり「とにかくやってみよう」と始めたが、行事でしたが、なんとか格好

をつけることができ、作品を展示した方たちには喜んでいただきました。

その後、広い立派なロビーがあり、展示パネルもできたので、ロビーの一部を常設のギャラリーにしようかということになりました。

ロビー全体のレイアウトを考えて、パネルの配置を決定、「町民ギャラリーつどい」として、今年の一月から展示を始めました。

「あなたの作品を展示してください。趣味の作品・芸術作品・コレクション・がらくた他、何でも結構です。」という事で作品を募集し、個展・教室展・グループ展の他、自由展示月間を設けて、作品一つからでも展示できるようにしています。

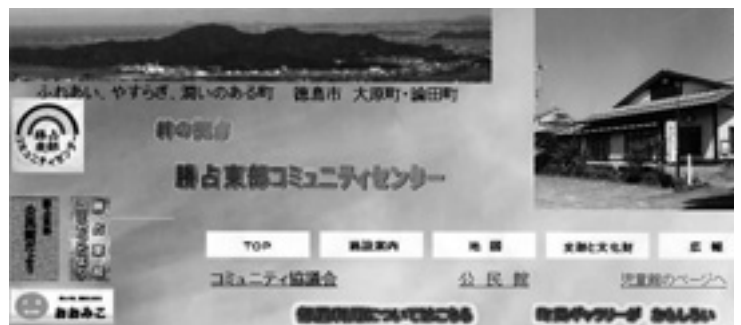
展示期間は各月を前半・後半に分けて十五日間としています。

展示内容は様々ですが、自由展示月間を年間四回程度、

そのほか防災などの特別展示も企画していきます。

自由展示月間になるのを待っている人がいたり、個展ではたくさんの方の知り合いの方に見てもらったりと、ギャラリーの滑り出しはなんとか好調？かな。

また、展示作品の一部をホームページに公開しています。是非ご覧ください。



<http://www.tcn.ne.jp/~katuratoubu/>



シリーズ
名所・旧跡

徳島城跡

内町まちづくり協議会
会長 豊田 雅信



鷺の門と月見櫓 資料提供：徳島市立徳島城博物館

一五八五（天正十三）年、阿波に入国した蜂須賀家政は、当初は一宮城に入城しました。しかし間をおかず、城山（渭山）を中心に翌年には徳島城を築き、一応完成させました。

標高約六一呎の城山には、細川頼之の築いた小さな渭山城があり、ふもとは福良吉武が居城していた寺島城がありました。家政は、城山の東に掘りを造ることで、城山北

の助任川、南の寺島川を巧みに利用して内堀と外堀を完成させ、二つの城を併合する形で徳島城を築城しました。徳島城跡といえば、旧徳島城表御殿と徳島城址の石垣が挙げられますが、徳島城址の特徴でもある石垣には、全国的にも珍し



鷺の門／伝説によれば将軍より賜った鷺を飼うために作られた門（脇戸付き薬医門）。

い青石（緑色片岩）や赤石（紫雲石・紅簾片岩）が用いられています。またその石組みは、時代ごとに野面積、打込接、切込接などさまざまな技法が用いられており、石垣の博物館といっても過言ではないほど、多様な石垣を見ることができます。旧寺島川沿い（現線路沿い）の石垣には、かつて屏風折れ堀を支えていた「舌石」という石が石垣に

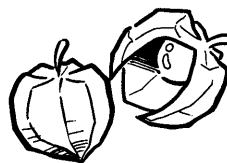
はめ込まれており、横矢掛かりの防御設備の遺構として残されています。城山原生林には徳島市の市木であるホルトノキがあるのですが、枯木が多く見られるようになり、内町まちづくり協議会も参加

にホルトノキの苗三百本を植樹しました。現在は国指定史跡となっていますが、認定されたのは平成十八年一月二十六日と近年のことで、それまでは市指定史跡でした。「徳島城址を愛する会」を中心と



屏風櫓／堀川の中央部に突き出した石垣の上に建つ櫓。戦の時は堀川を渡る敵を横から攻撃した。

した市民の声が実を結んだものといえます。徳島城跡は現在「徳島中央公園」となっていますが、以前は「徳島公園」でした。「徳島城公園」とか「徳島城址公園」に改称されるのが望ましいのではないのでしょうか？



津波避難訓練を終えて

応神町コミュニティ協議会
会長 玉置 勇次

一昨年の東日本大震災で多くの方々が被災し、特に津波は沿岸部の人々の生命・財産を奪い大きな被害が発生しました。このことを教訓に全国で津波からの避難対策が考えられています。応神町においても、市役所や徳島大学の指導の下、昨年六月に「応神地区津波避難支援マップ」が完成し、町内会を通じて各戸に配布し、広報やコミセンでの勉強会で周知に努めました。



避難集合の旗を目指して集まった訓練参加者 H 25.4.14 (日)

その後、避難訓練を実施したい旨の意見が聞かれるようになり、実施のための組織として「応神町防災クラブ」を設立し、その中に避難訓練企画部会を設け訓練計画を立案することとしました。計画づくりには先に訓練を実施していた津田地区の計画書を参考にさせていただきました。そしてまず、町内会単位で希望する避難場所を決めた結果、事業所や公的施設十

加団体を通じ周知を図るとともに、新聞販売所に依頼し訓練前に三回折り込みのチラシを配布しました。そして訓練前には「応神地区自主防委会連合会」を設立し、四月十四日の日曜日に訓練を実施しました。訓練当日は、東消防署に早朝から広報をしていただき、

一カ所が避難希望場所となり、それぞれの避難希望場所への協力依頼を行いました。また、各避難所の世話人には、町内会、消防分団、婦人防火クラブ、民生・児童委員の皆さんのご協力を得ました。訓練参加者を増やすためコミュニティの各参加団体を通

同報無線を使用した報告訓練を実施しました。また徳島北警察署からもパトカー三台と警察官十名の配置で交通安全と治安の維持に努めていただくとともに、災害時における一〇番通報訓練を実施しました。



避難完了・訓練等の説明と建物管理者に対する要望



アンケートの記入後、給水・給食活動として水等を参加者に配布

心配していた事故も無く天候にも恵まれ、千二百九十六名の参加を得て訓練を終えることができました。その後、反省会を実施したところ多くの問題点や課題が出てきています。整理した上で今後の活動の方針を決め、より一層の津波被害の軽減とコミュニティ活動の活性化を推進していきたいと考えています。



「一宮・下町子どもを守る会」の活動について

女性防犯委員会 会長 青木 知子

一宮・下町子どもを守る会の創設は、平成十八年。地域の方々、保護者の方たちと子どもを守る組織です。私が参加させていただいたのは平成二十三年からです。活動は次の目標を毎年確認しています。

平成二十四年度は、(一)

学校協力の地域安全マップ作成、(二) 子どもたちの登下校時における安全確保のための防犯対策、(三) 傷んだスクールガードのぼりの交換、(四) 地域への呼びかけを行い学校安全整備体制を推進、(五) 青色回転灯搭載車による地域安全パトロールの実施。



町内パトロール後の一宮駐在所前での記念写真

この目標をもとに、防犯委員、子ども会育成会、交通防犯自治協、女性防犯、一宮小PTA、小学校、駐在所、婦人会と町のいろんな方面の方たちで活動をしております。その一環として、地域安全マップをもとに青色回転灯を搭載しパトロールを行っています。集団登校の子どもの列に車が飛び込む事件が様々な県で発生したことに對し、特に登下校時に気を配っています。

夜間には交通防犯自治協会を中心に、交通防犯母の会も参加し、青色回転灯を搭載して、夏場は夜八時、冬場は七時半に神社、お寺、小学校、コンビニ、コミュニティセンター等を巡回しています。中学校、小学校の先生方にもご協力をいただいています。始めたころは、所々にタバコの吸い殻が落ちていたり、コンビニ周辺で中高生の姿を見かけることができました。現在では、そのよ

うな光景は見られなくなりました。

その他の活動としては西署の交通安全協会に参加しています。

秋、春の交通安全キャンペーン、不動明王交通安全祈願、周辺清掃、パンフレットの配布をします。

今年には西署管内で事故が多発しているとのことです。

一宮・下町地区での事故を

なくすお手伝いを続けていきたいと思えます。この活動を始められたころは大変なご苦労があったと聞いております。これからもコミュニティセンターを中心に地域の皆さまと一緒に、私たちも活動を続けていきたいと思っております。(一宮・下町づくり推進協議会)

地域を守る

安全安心な町づくり

徳島西防犯連合会 副会長 葉久クニ子

徳島西署生活安全課の中に、「地域を守る安全の会」というボランティア活動の組織があります。現在活動に取り組んでいるのは、男性十三名、女性九名です。「地域の子どもは地域で守る」という視点に立ち、幼稚園や保育所における幼児を対



全国一斉パトロール (府中交番前) H25.4.19 (金)

加してまいりました。少年非行防止健全育成活動を実施しているほか、地域の各種会合に積極的に参加して、家庭教育の重要性を啓発する活動も推進してまいりました。また安心安全な町づくりのため、自転車盗難や振り込め詐欺等を未然に防ぐ運動を継続して実施しております。年々事件事故が減少し、二十年前と比べると少年非行が半減しており、微力ながらも治安向上に貢献できていると思います。西警察署長様からは、「地域活

動のおかげで目が行き届き、治安向上に大きな意義がある」とのお言葉もいただいております。

これらの長きにわたる防犯ボランティア活動の功勞として、平成二十四年度秋の叙勲において藍綬褒章受章となり皇居に参内し天皇陛下に拝謁いたしました。女性が褒章をいただくことは、とても少ないことと聞いております。このように名誉な章を受けることができましたのも、ひとえに防犯活動に取り組んでこられた皆さまのおかげと感謝いたしております。

また、これからも、この地域に住んでよかったと思っただけでもらえるよう、ボランティア活動を続けていきたいと思っております。
(国府コミュニティ協議会)

新町コミュニティ 新活動の紹介

新町コミュニティ協議会
会長 沖野 高穂

新町地区は徳島市の中心商店街として発展してきました。かつての喧噪は無くなりましたがゆったりと落ち着いて買物ができる商店街、華やかな夜の歓楽街、また眉山を背景に新町小学校から寺町にかけて閑静な住宅街もある人口二千三百人足らず、世帯数千百余りの小さな地域です。新

町コミュニティ協議会は公民館に事務所を置き地域諸団体と連携し活動をしています。昨年度の行事を二つ紹介させていただきます。

第一は「新町芸能まつり」です。地域諸団体、ボランティアのご協力をいただき開催してきたこの芸能まつりも早十七回を数えるようになりました。日ごろ公民館や地域のサークルで研鑽を積んだ趣味や活動の発表の場であり親睦の場でもあるこの芸能まつりには、毎年多数の出演希望者があります。もちろんカラオケが人気の第一番ですが、お宮・貫一に扮しての「しゃっきんチンドン倶楽部」の皆さんのチンドン屋はやんやの拍手大喝采でした。また、初出演の「南京玉すだれ」は素人芸とは思えぬ手さばきで観客を魅了し、朗読サークルの朗読劇も聴衆を引き込んだすばらしいものでした。

皆さんによる模擬店のうどんとおでんは大好評です。参加者の皆さんがお昼を待ちかねて殺到します。また、出し物が終わるとお待ちかねの大抽選会です。抽選番号が読み上げられるたびに大歓声です。この芸能まつりは地域のふれあいの場としていつまでも続いてほしいものです。

第二に「地域防災訓練」です。先に発表された南海トラフを震源とする巨大地震の想定被害の大きさに防災訓練の必要性を誰しも感じました。日赤より講師をお招きしAEDの使用法や応急処置の仕方を学び、地域防災倉庫に何が保管されているかを点検し、炊き出しの訓練もしました。防災訓練は一度だけではなく何度も繰り返すことが必要です。今後とも地域の皆さんと取り組んでいきたい課題です。



高齢者福祉の課題

渭北街づくり協議会

会長 岩丸 定

年度替わりで町内会費を集めて回ったとき、ほんとうに驚きました。二十数軒の町内で、

老介護宅が三軒と、老介護宅が四軒あり、空き家が三軒もありました。少子高齢化が深刻になりつつあると心配されていますが、ここま

で進んできたかと考えさせられました。

いま、高齢者を支えるために強い「地域力」が必要だといわれています。この「地域力」とは、人間関係で互いを思いやり、一人ひとりの持つ力を分かち合う「協力社会」



独居老人食事会の準備

を築いていく地域の底力であり、地域社会に生ずる問題を地域で解決していく能力だといわれています。安心して暮らせる社会をめざして困難の解決にみんなが参加することであり、これが高齢者を支える「地域力」だと思います。「超高齢社会」と



独居老人食事会の様子

会の委員さんも高齢とともに、居住されている地区が偏在しており、共同募金活動に努力はされていますが、高齢者の見守り支援活動には無理があります。

そこで提案ですが、高齢者の見守り、子どもの安全、地域の防災や環境の整備に積極的に参加してくれる「福祉委員」(仮称)の創設、委嘱です。

いま行政から委嘱を受けている委員は、民生委員、防犯委員、青少年補導委員、ゴミ減量化委員などがありますが、「高齢社会」への対応として、ぜひとも「福祉委員」の新規創設のうえ、予算化し、行政から委嘱していただきたいと望みます。



編集後記

全国でいち早く徳島市にコミセンが生まれたのは、徳島選出の秋田大助自治大臣の時、ある町内で独居老人が亡くなって発見されたのが何日も経ってからでありました。地域社会の絆の喪失に危機感をもったからだと聞いています。ますます深まる高齢者福祉の課題を目の当たりにし、提言された渭北コミセンのお考えは今一度考え直すときですね。

地域の絆の深まりを目指し、具体的な活動が展開された紹介が今月号です。

勝占東部の「町民ギャラリー」の創設の熱意が町の文化を高めるでしょう。一宮・下町の子どもを守る会の活動は八年の歴史を重ねられ、地域活動の宝となっていることでしょう。国府の人づくり活動は藍綬褒章を受章されおめでとうございます。

新町の十七年の歴史を重ねる芸能まつり尊いものです。応神の津波避難訓練に千三百人参加。見事なものです。

名所・旧跡徳島城趾の紹介に石垣の貴重な内容を取り上げていただき、その価値を再発見したいものです。

(佐藤義忠 記)